

セスも可能となっています。

・医療機関等との協議の場の設定

三重県内において一定レベル以上の肝疾患診療を行っている医療機関に対し「肝疾患専門医療機関」の認定を三重県が行い、同施設を中心とした各医療機関との協議の場を設定し情報交換を行っています。

図 2.肝炎治療における病診連携



・医療従事者を対象とした研修会や地域住民を対象とした講演会等の開催

三重大学構内において大学のスタッフや医療行政担当者を対象とした肝炎対策研修会、肝炎患者様を対象とする肝臓病教室を開催しています。また年 1 回日本肝臓学会や三重県、三重県医師会との共催で、広く県民の皆さんに肝炎を中心とした肝疾患に対する理解を深めて頂こうと「肝がん撲滅運動記念後援会」として市民公開講座を開催しています。

2. 診療実績

2018年1月から12月における相談件数

病気自体に関して	9件
病気の治療に関して	8件
肝炎訴訟について	3件
日常生活上の留意点について	2件
生活支援について	1件
その他	4件
合計	27件

開催市民公開講座:

平成 30 年 7 月 28 日(津市三重大学)
肝がん撲滅運動 市民公開講座 大切にしよう！
あなたの肝臓 ～糖尿病や脂肪肝も危険!!～

1. 肝炎の話-たかが脂肪肝、されど脂肪肝
三重大学消化器肝臓内科助教 小倉英
2. 肝臓の話-糖尿病や脂肪肝との関連性
三重大学消化器内科学助教 杉本龍亮

特別講演

「がんは『運』である？」

大阪大学大学院医学系研究科・病理学
教授 仲野 徹先生



平成 30 年 9 月 13 日 (四日市市)

C型肝炎対策セミナー

～肝臓がん撲滅を目指して～

主催:時事通信社 協賛:アツヴィ合同会社

後援:厚生労働省 三重県 四日市市 三重県医師会 三重県薬剤師会 三重県病院薬剤師会 全国知事会 全国市長会 全国町村会 日本肝臓学会 全国健康保険協会三重支部 三重県臨床検査技師会

講演 最終コーナーを回った C 型肝炎治療
三重大学消化器内科学教授竹井謙之

講演 我が国の肝炎対策について
厚生労働省健康局 がん・疾病対策課
肝炎対策推進室長 小野俊樹氏

講演 三重県における肝炎対策の取り組み
三重県医療保健部 医療政策総括監
田丸智巳氏

パネルディスカッション

「C型肝炎・肝臓がん撲滅のために、私たちにできること」

小野俊樹 田丸智巳 矢倉政則 酒井秀精
長谷川浩司 (特別発言)竹井謙之

平成 30 年 9 月 16 日 (津市)

三重県津市市民公開講座健康セミナー
あなたの肝臓、大丈夫？

～肝臓の最新医療と至高の肝臓食～

1. 鎮めろ！B型肝炎 杉本和史
2. 治そう！C型肝炎 長谷川浩司
3. 減らせ！脂肪肝(NASH) 岩佐元雄

パネルディスカッション

竹井謙之 杉本和史 長谷川浩司
岩佐元雄 (特別ゲスト)宮崎英男シェフ

■ 今後の展望

ウイルス肝炎は血液製剤におけるスクリーニング法の確立や母児感染対策事業により新規のウイルス感染者は近年減少傾向にありますが、感染患者の高齢化に伴う肝発癌率の増加が危惧されています。慢性肝炎の多くは自覚症状に乏しく感染者自身も知らないうちに「肝硬変」や「肝臓癌」に進行することも多く、血液検査による感染者の同定と感染者に対する適切な医療の提供の必要性が指摘されています。一方、この10年間の肝炎に対する治療法の進歩には目を見張るものがあります。B型肝炎においては経口核酸アナログ製剤の登場によって多くの患者において肝炎のコントロールが可能となり、C型肝炎においてもペグインターフェロン+リバビリン併用療法に始まり DAAs (Direct-acting Antiviral Agents) によって難治といわれる genotype 1b 感染者においても約95%がウイルス排除される時代になりました。

2016年5月31日WHOは2030年までに肝炎ウイルスを根絶させることを目標に挙げ各国に協力を求める採択がなされました。

このような状況ですが、まだ国内には肝炎にかかっているが肝炎に対する検査、治療を受けていない方が大勢みえます。厚生労働省はこのような状況に対して受験、受療率の改善を目標に様々な施策を展開しています。

平成26年に厚労省からの通達周知事項として、手術前検査での肝炎検査の通知の徹底とその後のフォローに対する勧奨があり、当院における2013年の肝炎ウイルス検査の実態評価を行いました。その結果一部の部門での未通知の現状があり、その後のフォロー、コンサルト率向上を目指し、院内 院外での広報活動を展開してきました。

この結果2015年のコンサルト率の上昇を確認しました。(図3)

今後は更にコンサルト率を上昇させるべく、2016年12月導入の mint2 プロジェクトにて肝炎アラートが導入され、コンサルト率が改善傾向にあります。

また新たな肝炎患者の掘り起こしのため、市民公開講座をはじめ啓発活動を展開しています。

肝炎ウイルス陽性者が肝臓専門医へ紹介されない、非肝臓専門医(かかりつけ医)から肝臓専門医への紹介がなされないといったことによって、せっかくの抗ウイルス療法が導入されないことがあります。

肝炎対策には居住地域による取り組みの違いがみられます。より良い対応を行うためには、それぞれの地域の特性に応じた肝疾患診療連携拠点病院(拠点病院)、肝疾患専門医療機関、非肝臓専門医、行政機関や検診機関、医師会が一体となった連携体制の確立が必要です。

このように様々な人々の間で生じる諸問題を的確に解決するには個人の力は非力ですが、コーディネーターを介したチームでの活動で対処が可能です。今後はチーム医療に不可欠な肝炎医療コーディネーターの育成が急務であり、肝炎相談支援センターはその育成を支援していきます。また肝炎検査およびその後のフォローを円滑にすべく、メディカルスタッフ、市町村検診部門担当者向けに肝炎コーディネーターレベルアップを目標にし、研修会を行っています。

4)おわりに
肝炎・肝癌の撲滅にむけて、肝疾患全般にわたる医療相談、啓蒙活動および情報発信を行います。

<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/>(ホームページ)

